



西原のクス並木 (現在の国道 269 号線)



昭和43年



海上自衛隊鹿屋航空基地沿いの国道 269 号線は、昭和 43 年にはクスの木が植えられていました。また、自衛隊側の歩道はまだ整備されておらず、未整備の道を子どもが歩いているのがわかります。現在では、写真に写る 3 輪のトラックはほとんど見ることはなくなり、クスの木に代わって桜の木が行き交う人や車を見守っています。



昭和37年に導入されたごみ収集車。当時としては最新の圧縮収集車でした。

昭和30年代から、ごみの収集は荷馬車から三輪車、四輪車、専用の収集車へと変わっていきます。そして、昭和38年、ごみ箱がまちなかの景観を損ねてしまうことに加え、ハエやカの発生源となることを解決すべく、市は収集方法を変更し、ごみの定時収集に乗り出すことになりました。

まずは婦人会の会員へ定時収集についての意見をもらい、モデル地区を決めて、実証を始めまし

ごみの定時収集開始

カノヤタイムトラベル

昔、鹿屋で起きた出来事にクローズアップ!

今では当たり前となっているごみの定時収集が始まったのは昭和38年。それまでは収集車やトラックが不定期に街中に置かれたごみ箱を回り、ごみの収集を行っていました。

昭和30年代から、ごみの収集は荷馬車から三輪車、四輪車、専用の収集車へと変わっていきます。そして、昭和38年、ごみ箱がまちなかの景観を損ねてしまうことに加え、ハエやカの発生源となることを解決すべく、市は収集方法を変更し、ごみの定時収集に乗り出すことになりました。

まずは婦人会の会員へ定時収集についての意見をもらい、モデル地区を決めて、実証を始めまし

た。その方法は、各家庭にごみを入れる容器を準備し、地区ごとに決まった日時と場所に容器を出すというもの。ごみ収集が終わるとそれぞれの家庭で容器を持ち帰って水洗いをし、容器を清潔に保っていました。また、当時の収集車にはオルゴールの音が鳴る機能がついており、その音で各家庭に収集を知らせていたといわれています。

定時収集が始まった昭和38年には寿町(現在の札元2丁目)に焼却所が新設され、現在では肝属地区清掃センター(串良町下小原)がその役割を引き継いでいます。時代が進むにつれて多様化するごみ問題に対応するため、収集方法も処理方法も変化しています。



昭和38年に寿町に新設された焼却場。現在はひまわり公園になっています。